

「『陸上総隊指令部』創設へ」静岡新聞 P1 本日のトップ記事です。

オバマ氏を否定する可能性を持つ米国 未来が見えません。日本国も、榛南の地方自治も、榛原医師会も、これらを成す 個々の人間までもが 右往左往、定まる処を知らず、うろたえている状況。逃げていても 解決できません。現状を捉え 把握して、現在の そこで生かされ生きようとする己を肯定して、力強く 行動したいものです。

己の中で、完結させたくても、相手の対応無く、許されない“事”、一年になりました。

それでも一つのけじめを付け、今年中 己が“天命を知る歳”と成る迄に、“事”を解決・完結させ、委託する事は 己の信ずる処に授け、次に臨みたいと考えております。

相手に対応する姿勢・能力が無く“臭いものには蓋”的に闇に葬ろうとする事、彼らが生きてきた過程で形成された訂正出来ない間違ったプライド ここからくる“無言(ダンマリ)”“対応無し”という行為、事が起こってから周囲が気付き停止させるまでの時間、厄介なものです。 《平成 22 年 6 月 康寿診報 第 150 号 送付文より抜粋》

「私 加藤寿夫の問い掛けに 返答した」という“形”以上に“事”を大きくして、「専門家の先生に 私 加藤寿夫が具体的に依頼して動いていただく」という“事”は、「貴方 高木平氏の対応がその様にさせた」という“事実”、これは“物”を動かさざるを得ない“事”とさせる行為であります。貴方は 榛原医師会会長として、今回の“貴方に非のある問題”を 榛原医師会にとって如何様な問題であると、何処まで“事”広げて、何をしたいのか？ 私には理解出来ません。 《平成 22 年 11 月 29 日 高木平氏への文面より抜粋》

「最初に 掛け間違えたボタン その後に掛けたボタン、これらを すべて外し 事を振り出しに戻す」その思い…。 《平成 22 年 11 月 30 日 高木平氏への文面より抜粋》

私の“魂の叫び”に対して無言(ダンマリ)で抹殺しようとの考え、これは間違えです。

直接話し合う・交渉の場を持つ、これに応じなければ文面で伝える。必要に迫られ何度も繰り返した。これに応じない状況。出来る“事”は 遣り尽くした。正確に 行動した。

ここ半年余り、「己を自重する意味を熟考」し、己の感情を抑え 整理して、“事”に徹してきた。「時の流れ 月日の流れの中」「何人かの己を託せる“師”“友”との交流の中」「母 雅子により与えられる『この世に生かされ生きる根源“雅寿の文言”からの力』に導かれる中」。そして、長期的な視点から“天命を知る歳”と成る迄 本年中に、“短期に決すべき事”として、今月 11 月末迄 榛原医師会 会長 高木平氏、編集委員会委員長 大川雅龍氏に対する。一定の“事”を解決・完結させたら、委託する事は 己の信ずる処に授け、次の仕事に徹する事に決めた。

「人間の 懺悔の機会を提供する“意”を込めて 提示」する。神は「人の懺悔の心に対し、それが“真”であり 未来に向けて“開かれた心”であれば許す」、その様な 存在である。 《人間たる所以 その(45) 雅寿》

本筋を知らず、好奇の思いから「暴徒化していると見る周囲の目」、「未来を語れますか？」と申し上げたい。“咎めない”と決めた。【“本筋”は 康寿診報 153 号 別冊 P5-8 参照】

50 歳迄 あと一カ月、3 年後のスパークの為に、今の自分・自己から、正確に 可能な限りの力で 物申してみる。あと一月で この期間も終焉する。多くの“師”“友”に感謝。

“事”の詳細は 己でマネジメントする。相手の不誠実により 遣り残した“事”は 己の信ずる 専門家の処に すべてを授ける。己は 次の“事”に 臨み これに徹する。

現実の中、「己が 魂を据えて“事”に当たる 必然性」を感じる。

皆さんの力で「私 加藤寿夫の“魂”の火」を消さないで下さい。宜しくお願いします。

色々と“事”が起こる事、享受して活きます。康寿診報 151～155 号 送らせて頂きます。

平成 22 年 11 月 28 日 加藤寿夫

ホームページが新しくなりました。<http://www.katoiin.jp> ぜひご覧ください。

裏面は“事”が解決したら送付しようと 7 月 8 日書いたものです。相手の対応の無さに呆れております。この件については 今月末を期限に 専門家に委ねます。

《平成 22 年 11 月 康寿診報 第 155 号 送付文》